

◆ みちしるべ ◆

昭島市立拝島中学校

第三学年 進路だより No.5

令和6年 6月18日(火)

—— “ギリギリ星人” 要注意！

以前の学年集会で、三上先生が“希望の進路実現ができない生徒の特徴”として、“遅刻ギリギリに駆け込んでくる生徒”を挙げていました。これは、皆さん生徒からしてみれば、「頭が良い奴が合格するんだから、そんなの関係ねーだろ」と思うことかもしれませんが、15年、30年と教員をやっている先生たちからすると、首がもげるくらいなずける“本当の話”なのです。

まず、“遅刻ギリギリの生徒”（拝島中で言うと、8:20の段階でまだ教室に着いて、読書ができていない生徒）は、実は、朝だけでなく、他の時間を切り取って見ても、ギリギリであることがほとんどです。

例えば4時間目の体育の後、給食当番にも関わらず、特に急ぐこともなく教室に歩いて戻ってくる生徒や、教室掃除をしていて、机を後ろに下げる段階でようやくほうきを持って、何食わぬ顔でそそくさと掃除に参加する生徒は、“遅刻ギリギリの生徒”とイコールであることがほとんどです。一事が万事、のんびりゆっくり、マイペース。それは“おおらかである”と言えば長所にもなり得ますが、進路選択に関しては、ただの“自分に甘い人”ということになります。そういう人は自分の時間を上手に使えないので、様々な面において、圧倒的に不利なのです。

また、「自分がいい加減なことで、他人に迷惑がかかっていること」にも気づけない視野の狭さでは、面接などで好印象を得ることは絶対にできません。（不思議なくらい、高校の先生方はそういう部分を見抜いてきます。）

朝遅い人は、「遅刻」というデメリットがあるだけでなく、早く来ていれば何とかなったかもしれない“うっかり忘れていた宿題”などに取り組む時間もないため、一日が“焦り”や“あきらめ”などのネガティブな感情でスタートすることも多いでしょう。そんな生活を、ずっと続けるのでしょうか…。

この話を聞いて「だって、朝は眠いもん！」と言い訳をするのであれば、もう何も言うことはありません。しかし、「あと5分早く起きよう！」と決意できた人や、一緒に登校している人に「あと5分、待ち合わせの時間を早くしない？」と言える人は、必ず良い変化があります。

人間の脳みそは、覚醒してから本来のはたらきを取り戻すまで、3時間はかかると言われていきます。高校の入試は、だいたい9:00開始。逆算すれば何時に起きればよいか、自ずと分かるはずです。もちろん、今まで遅刻ギリギリに起きていた人が、いきなり6:00起きにするのは難しいと思います。しかし、寒くなってくれば、早起きは余計に「苦行」です。進級して今日で二ヶ月余り。ぜひ、どんなに遅くても一学期中には、“ギリギリ生活”を脱出しましょう！

お前がいつの日か出会う禍^{わざわい}は

お前がおろそかにしたある時間の報^{むく}いだ。

ナポレオン・ボナパルト（ナポレオン1世）